

粕谷和夫より。1月22日、皇居東御苑の散策で、本丸跡に向かう途中、コブシの木にシジュウカラとヤマガラがいました。ヤマガラは直ぐいなくなりましたが、シジュウカラは逃げず、何かを盛んに突いて食べていました。直ぐ近くでの出合です。よく見るとカマキリの卵囊を食べていたのです。皇居の中は自然豊かですね。

紅葉台



新聞

第229号
2026年
4月11日
発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



コゲラの採餌です。1月24日、八王子・浅川の山田川合流付近の河原です。普通、キツツキは木の幹を突いて餌をとっていますが、この日は河原に繁茂するオオブタクサの冬枯れの幹を突いてその中の虫を食べて

いました。エサ取りに集中しているためか、堤防からすぐ近くの堤防からジュニアクラブの親子達と一緒に見えてもコゲラは逃げ去りませんでした。



1月27日、八王子・川町谷戸で野鳥の定期カウント。栗林の下を歩いていると頭上に**葉付実入りの栗のイガ**が一つだけ、ポツンと残っているのが眼に入りました。イガの棘は、成長中の実を害虫から守るためのものだと思いますが、その役目を終わった冬でも中の実をまじめに守っている姿は、青空のよう

に清々しさを感じました。

日本語ミニ講座「発音」と「綴り」について

関 邦義

前回、ゲーテとギョーテは同一人物で、国によって呼び方(発音)が異なるというお話をしました。それで思い出したのが現在テレビで放映中の朝ドラ「ばけばけ」です。

ご存知のように、『怪談』や『知られざる日本の面影』等の作者であるラフカディオ・ハーン(日本名:小泉八雲)をモデルにしたドラマですが、一般にハーンで知られている名前がドラマでは「ヘブン」になっています。

彼の出生名は英語で Patrick Lafcadio Hearn(1850-1904)と綴ったようです。ミドルネームの Lafcadio は出生地であるギリシャのレフカダ島の名にちなんで命名されたとあります(『世界大百科事典』)。Hean は英語読みだと「ハーン」となります。当初、「ヘルン」と呼ばれたようですが、それは、彼が 1890 年に島根県尋常中学校に英語教師として赴任した際、そう読まれたことがきっかけらしく、本人自身は「ヘルン」という呼び名が気に入っていたようです。それは「へるん」や「遍留ん」と言う印鑑を作っていたということからもわかります。それがなぜ「ヘブン」なのでしょう。それは、朝ドラの「ばけばけ」は、あくまでもドラマであって、ドキュメンタリー番組ではないので、名前を変えているというだけのことのようにです。今までの朝ドラも、みんなそうなっています。ところで、「ヘブン」で思い出すのは「ヘボン式ロー

マ字」で知られる「ヘボン」(James Curtis Hepburn)です。あるいは女優の「オードリー・ヘップバーン」(Audrey Hepburn)も同じ綴りです。Hepburn をヘボンと読むのは原語の発音を重視したもので、ラフカディオ・ハーン自身も「ヘボン」と名乗っていたようです。一方、オードリー・ヘップバーンの方はヘップバーンで一貫しています。どうやら、ヘボンは発音重視で、ヘップバーンは綴り重視ということになるのでしょうか。〈ちなみに、サンダルのことをヘップと言ったりしますが、これはヘップバーンが『ローマの休日』の中で履いていたことに由来するようです。〉同様に American も「メリケン粉」の場合は発音重視で、「アメリカン・コーヒー」の場合は、表記重視ということになるでしょう。



Machine という語も「マシン」だったり「ミシン」だったりします。日本語だと別の意味になってしましますが、もとは一緒です。以前トム・ハンクス主演の「Road to perdition」という映画を観ていたときに、トム・ハンクスは、はっきりと Machine を「ミシーン」と発音して

ました。それから、「カード card」(英語)、「カルタ carta」(ポルトガル語)、「カルテ Karte」(ドイツ語)も、もともとは同じ言葉に由来します。これは、国による表記・発音の違いです。



【補注】小泉八雲(こいずみやくも)

(1850-1904) 作家・英文学者。ギリシャ生まれのイギリス人。本名、ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn)。1890年(明治23)来日。松江の人、小泉節子と結婚。のち帰化。松江中・五高・東大などで教鞭をとりつつ、日本研究をまとめ海外に紹介した。評論「東の国から」「心」「神国日本」、小説「怪談」など。(三省堂「大辞林」による)



粕谷和夫の いい話

昨年4月に八王子市の呼びかけで高齢者施設にボランティアでオカリナの演奏に行く人が募集されました。その時の応募者は45名で、抽選で選ばれた20名で練習が始まりました。その講師を依頼され昨年12月までに15曲を何とか吹けるように仕上げました。本日は現場での練習ということで、市内の高齢者施設で「腕だめし」の演奏をさせてもらいました。オカリナをゼロから始めたメンバーが一所懸命メロディを奏で、施設の方々が一緒に歌ったり、耳を澄ませて聴いてくれたりする姿を目前にして、講師を引き受けてよかったと思っています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。